FUJIKURA COMPOSITES

CSR REPORT 2021

藤倉コンポジット株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明イーストタワー10F
TEL 03-3527-8111　FAX 03-3527-8330
お問合せ先：管理本部 CSR推進室
https://www.fujikuracomposites.jp/company/

FUJIKURA COMPOSITES

FUJIKURA COMPOSITES

CSR REPORT 2021

CONTENTS

01 編集方針、事業概要

02 トップメッセージ

03 藤倉コンポジットがささえる5つのこと

05 コーポレート・ガバナンス

06 環境報告

09 社会性報告

編集方針

本報告書は、藤倉コンポジット株式会社の理念と事業の現状およびCSR活動の年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進することを目的に発行しています。

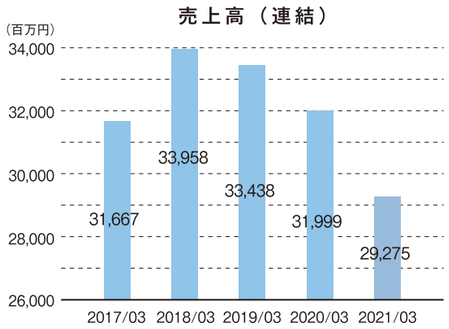
- 報告対象範囲／藤倉コンポジット株式会社
- 報告対象期間／2020年4月1日～2021年3月31日
  ※一部、対象期間外の取り組みも紹介しています。
- 報告書発行時期／2021年9月
  （次回発行予定2022年9月）

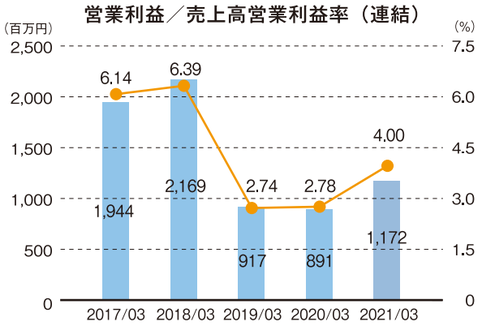
事業概況

社　名　藤倉コンポジット株式会社
本　社　東京都江東区有明3-5-7
　　TOC有明イーストタワー10F
創　業　1901年10月
資本金　38億429万円

事業内容

各種工業用ゴム部品の他、空圧制御機器、除振台およびその周辺機器、印刷機材、電気・電子機器、救難救命具等産業資材、ゴルフ用カーボンシャフトの製造販売など様々な分野で幅広く事業を展開しています。





トップメッセージ

昨年初めから世界各地に広がっている新型コロナウイルス感染症に感染された方々には心よりお見舞い申し上げます。また、この感染症の最前線で日々立ち向かっている医療関係者の方々には深く感謝を申し上げます。

当社は1901年の創業時に、日本初のゴムと布を掛け合わせた「ゴム引布」を開発し、以来ゴムと金属や樹脂といった異材を複合させた様々な製品を世の中に提供してまいりました。この度の新型コロナウイルス感染拡大の中でも、当社の独自技術を生かした「ナイロン製防護服」の開発や「陰圧式エアーテント」も展開しております。

これまでの100有余年の中では苦難の時代もありましたが、経営ビジョンの「複合化技術で豊かな暮らしをささえる」を念頭に、常に世の中に貢献し続ける企業であることを目指してまいりました。その中で、5つの「ささえる」をキーワードに、事業を展開しています。

「くらし」「ものづくり」「エネルギー」「いのち」「レジャー」を“ささえる”、目に見えない基盤となり、そこに豊かさを生み出し、人々の安心・安全をささえる。社会に寄り添う企業として、これからも広く環境への配慮、社会問題への取り組み、ガバナンスの強化を進めてまいります。

自社の強みで社会的な課題に挑戦することこそ、社会の持続的な成長につながり、当社のCSR活動の柱になると考えています。

お客様や株主様、そして地域の皆様、当社従業員といった様々なステークホルダーの皆様と相互に協力し、皆様の期待に応え続けられるよう、まい進してまいります。さらに、事業活動を通じて国内外の社会課題の解決に取り組むことで、従業員の成長と当社グループ全体の企業価値向上につなげていく所存です。

2021年9月
代表取締役社長　森田健司

企業理念

経営理念

技術・創造・いきいきコミュニケーションを大切にし、人々の安心を支え社会の豊かさに貢献します。

事業理念

わたしたちはお客様と相互に技術力を高めあいながら、設計技術・複合化技術・加工技術により新たな可能性を引き出し、高機能製品を提供します。

品質方針

「消費者重視」・「製品安全の確保」の為に、「品質至上」に徹し、優れた製品を提供し、社会に貢献します。
常にお客様の満足する製品の提供を目的とします。
品質マネジメントシステムの有効性を維持し、目標達成への行動を通じて、継続的な改善を行います。

私たちは卓越した複合化技術で豊かなくらしをささえる グローバルカンパニーをめざします

当社は、創業者・藤倉善八の遺志を継承した松本留吉が、1901年（明治34年）に藤倉電線護謨合名会社を創立したことに始まります。藤倉善八の甥・岡田顕三が1896年（明治29年）に渡米し、ゴム引防水布の製造技術を修得して帰国。日本で最初のゴム引布工場をスタートさせました。ゴム引布は、工業用ゴム製品や電気絶縁材料など、今日の市場で流通している多くの商品にも受け継がれており、1世紀以上にわたって社会の発展に大きく貢献しています。現在では、産業用資材からゴルフシャフトに至るまで、複合化技術を用いた様々な製品の開発を行っています。

RUBBER×COMPOSITES ＝ 豊かさ

様々な環境には見えていない、基盤となるものが必ずあります。
藤倉コンポジットの私たちは、その多くの環境をささえ、豊かさを生み出し、
そしてより良い環境へと進歩し続けています。
藤倉コンポジットがささえる5つのコンテンツをご紹介します。

“くらし”をささえる

「ライフライン」「住宅」「印刷」「音響」にかかわる製品、材料を提供し、”くらし”をささえています。

住宅機器用部品

生活を営むうえで欠かせない、ガス・水などを制御する機器の心臓部で使用されています。安全が絶対条件になるような住宅機器の用途で高い市場実績を誇っています。

オフセット印刷用ブランケット

新聞やチラシなどオフセット印刷をする際に使用されています。

”ものづくり”をささえる

「自動車」「鉄道」「産業用機器」などに欠かせない機能部品を製造し、”ものづくり”をささえています。

自動車用部品

エンジン、ブレーキ、吸排気といった最も重要なモジュールを支える機能部品を数多く製造しています。様々な要請にお応えして、高品質の製品を提供しています。

BFシリンダ

駆動部にBFダイヤフラムを採用した国内唯一のシリンダ（制御装置）です。低摩擦で滑らかなストロークで、微かな圧力変動に対して感度よく作動します。

“エネルギー”をささえる

「発電」「送電」「蓄電」にかかわる製品を製造し、”エネルギー”をささえています。

非常用マグネシウム空気電池

災害時の非常用電源。塩水を入れるだけで発電します。同時に5台のスマートフォンを充電することが可能です。

風力発電機用ブレード保護シート

風力発電機のブレード表面を、飛来物や雹（ひょう）、砂などとの衝突による損傷から長期にわたり保護します。

”いのち”をささえる

「医療」や「救命」に役立つ製品を製造し、”いのち”をささえています。

膨脹式救命いかだ

各種船舶に搭載義務のある海上避難設備です。常温で投下作動後10～25秒程度で完全に膨脹し、乗員が安全に乗込むことができます。

レギュレータ

感度、安全性ともに優れた特性をもつ減圧弁です。在宅用医療機器などに用いられています。

”レジャー”をささえる

「ゴルフ」「アウトドア」を通して、”レジャー”をささえています。

ゴルフシャフト

カーボン（炭素）繊維で作られたゴルフ用シャフト。振動を吸収し、インパクトの際の衝撃を和らげます。大人気Speederシリーズは、多くのゴルファーに親しまれています。

登山靴

「軽くて履きやすくて歩きやすい」キャラバンシューズ。1954年の誕生以来、多くの登山愛好家に親しまれ続けています。

その他の製品情報はこちらをご覧ください ⇒ https://www.fujikuracomposites.jp/activity/

沿　革

1901年10月　松本留吉により、藤倉電線護謨合名会社を創立、電線、ゴム引布防水布の製造を開始。
1910年 3月　電線部門とゴム部門を分離、藤倉合名会社防水布製造所を設立。
1917年 6月　東京都品川区五反田に五反田工場を開設。
1920年 4月　株式会社に改め藤倉工業株式会社を設立。軟式飛行船やパラシュート、飛行機用タイヤなどの製造を手掛ける。
1948年10月　藤倉ゴム工業株式会社に商号変更。
1949年 5月　東京証券取引所に上場。
1949年12月　自動車用タイヤチューブの製造を販売開始。
1952年11月　軽登山靴「キャラバンシューズ」を開発。
1955年 6月　救命いかだ、救命胴衣製造販売を開始。
1973年11月　船舶の大型化にともない垂直降下式乗込装置（シューター）を開発。
1974年 5月　炭素繊維を使用したゴルフカーボンシャフトFlyrun（初のオリジナルブランド）の発売を開始。
1996年 5月　ゴルフカーボンシャフト「Fit on 11 SPEEDER」を発売。スピーダーシリーズの先駆けとなる。
2011年 3月　東日本大震災で原町工場、小高工場に甚大な被害を受ける。小高工場を休業。
2016年 9月　被災企業としての経験を活かし、非常用マグネシウム空気電池を開発、販売。
2019年 4月　藤倉コンポジット株式会社に商号変更。

藤倉コンポジットのSDGsの取り組み

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略語であり、2015年9月の国連サミットで採択された国際目標です。2030年までに達成すべき17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成され、地球上の誰一人取り残さないことを誓っています。採択文書内では、企業は創造性とイノベーションを発揮することが明示的に求められています。

企業が持続的に成長していくためには、その前提として社会が持続可能でなければなりません。藤倉コンポジットは、持続可能な社会の実現が企業の発展の基盤であることを認識し、さらなる発展に向けた事業活動と持続可能な開発への貢献の両立をめざした活動を推進するため、2021年2月にSDGs推進委員会を設置いたしました。

様々な部門から将来を担うメンバー20名が選出され、藤倉コンポジットとして取り組むべき課題について検討していきます。

コーポレート・ガバナンス

当社では、事業の規模や性質に適応した形で、業務の効率性・透明性・公正性を高めるとともに、
皆様の信頼に応えつつ、企業価値の持続的な向上を掲げ、コーポレート・ガバナンス体制の強化に努めています。

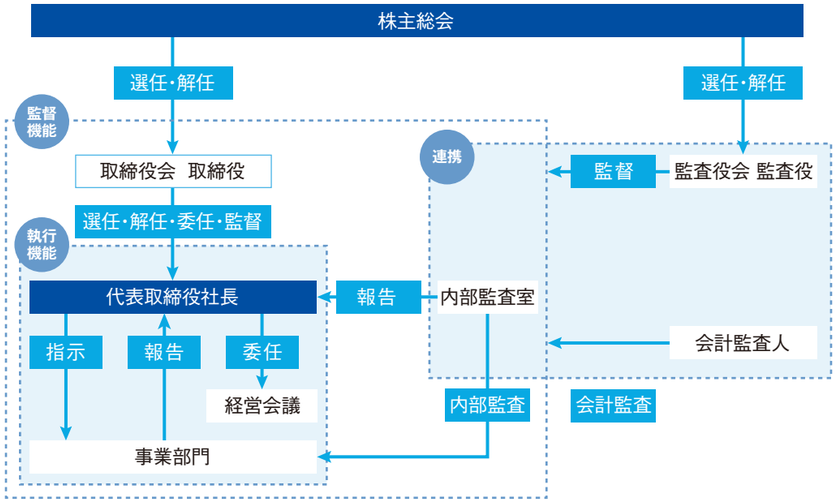
基本的な考え方

当社では、「技術・創造・いきいきコミュニケーションを大切にし、人々の安心を支え社会の豊かさに貢献します」との経営理念のもと、事業理念、定款、コーポレート・ガバナンス方針、「FUJIKURA COMPOSITES行動規範」を柱として、コーポレート・ガバナンスの充実に努め、公正で健全な経営により、長期的かつ安定的に発展していくことを目指しています。

適正・迅速な意思決定と事業の運営、ステークホルダーとの良好な関係、法令順守にあわせ、職務の枠にとらわれない幅広い観点からの業務状況の把握と監督、一層の経営資源の有効活用といった形で経営の効率性、透明性を高めています。

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、当社の企業価値の向上におけるコーポレート・ガバナンスの重要性と当社の規模や事業の性質に鑑み、効率性、透明性、公正性を確保するために実効性のある体制として、監査役会設置会社の形態をとりつつ、一定の独立性を有し、かつ当社の事業環境、経営、企業会計について、十分な見識を有する社外取締役や社外監査役をそれぞれ取締役会と監査役会のメンバーに加えて、意思決定や業務執行の透明性に配慮した体制としております。



内部統制システム

当社は、経営の適法性・健全性・透明性を確保し、経営理念を実現させるため、内部統制システムを策定しています。また、本システムは企業の存続と価値の向上に重要であると考え、業務の効率性・透明性・公正性において適切なシステムの構築と運用に努めております。業務の執行にあたっては、内部統制の基本方針に基づいて予め定められた意思決定ルールに則り、内部統制の基本方針、経営方針および計画等に従い事業計画を策定しております。尚、効率的な事業運営を行うため、業績管理を徹底し、常時状況を把握し、必要な修正を行っております。

リスク管理においても、重要なリスクの継続的な識別、分析、評価、対応策等の検討を行い、横断的かつ統合的にリスクマネジメントを行っております。

コーポレート・ガバナンスの詳細はこちらをご覧ください。⇒
https://www.fujikuracomposites.jp/ir/governance/

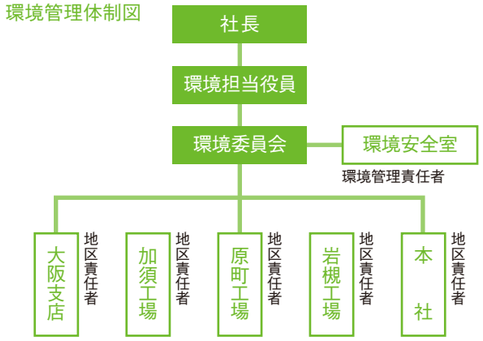
藤倉コンポジットの環境活動

企業の事業活動は、地球からの恵みを土台にすることで成立していますが、その地球の環境を守る活動は全ての企業の責務となっています。当社は、そのことを常に認識し、環境負荷低減活動に積極的に取り組んでいます。

環境管理体制

社長及び環境担当役員をトップとする環境委員会を設置し、各地区の責任者が環境保全活動を管理・運営し、環境委員会に報告する体制を整えています。

環境管理体制図



ISO14001認証取得状況

事業所・工場	所在地	認証取得年月日	審査機関
本　社	東京都 江東区	2004年 1月26日	ロイドレジスター クオリティアシュアランスリミテッド (LRQA)
原町工場	福島県 南相馬市 原町区		
岩槻工場	埼玉県 さいたま市 岩槻区	2005年 7月9日	
大阪支店	大阪府 大阪市北区	2007年 1月26日	
加須工場	埼玉県 加須市	2013年 1月26日	

環境方針（労働安全衛生方針を含む）

- 全ての事業活動において環境・労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、継続的に改善を行い環境負荷軽減、汚染の予防及び労働安全衛生維持向上に努めます。
- 全ての事業活動における環境側面及び危険源の特定を行います。そのためにはその存在を認識し、その特性を明確にするプロセスを構築し、是正・予防に努めます。
- 環境負荷軽減及び安全衛生の目標と改善計画を文書化し、その実施状況を確認し、年度毎に見直しを行います。
- 環境及び労働安全衛生関連の法律、条例、協定及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- 環境・労働安全衛生方針を組織で働く人又は組織のために働くすべての人に周知し、環境保全及び労働安全衛生への意識を高めます。
- 環境・労働安全衛生方針を広く一般に開示します。

環境目標と実績

当社は主に以下に掲げるテーマで環境負荷低減活動を推進しています。2020年度の結果は全ての目標を達成しました。
引き続き、2021年度も目標達成を目指して積極的に環境負荷低減活動に取り組んで行きます。

テーマ	2020年度目標	実　績		2021年度目標
最終処分量（産業廃棄物）の発生抑制	2005年度比95%以上削減	99.3%削減	◎	2005年度比95%以上削減
CO_2排出量の削減（地球温暖化の防止）	2005年度比15%以上削減	35.8%削減	◎	地球温暖化対策推進法や一般財団法人日本ゴム工業会より今後表示される中期目標に従って取り組みます。
VOC(揮発性有機化合物）排出量の削減	2000年度比50%以上削減	80.0%削減	◎	2000年度比50%以上削減

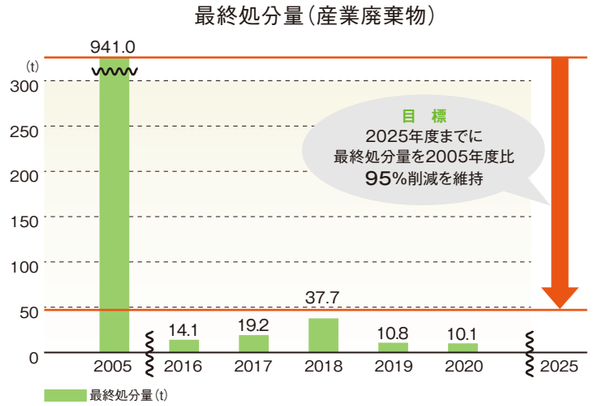
藤倉コンポジットの環境活動

環境負荷軽減活動は、主に産業廃棄物の最終処分量、地球温暖化防止のCO_2の排出量、光化学スモッグの原因となるVOC（揮発性有機化合物）の排出量の削減を推進しています。
また、削減目標値は当社が加盟している一般社団法人日本ゴム工業会の指針に従っています。

最終処分量（産業廃棄物）の削減

一般社団法人日本ゴム工業会の削減目標は「2025年度までに2001年度比で最終処分量を95%以上削減する」ですが、当社は2005年度より集計を開始したため、日本ゴム工業会の了承を得て、「2025年度までに2005年度比で最終処分量を95%以上削減する」を目標としています。

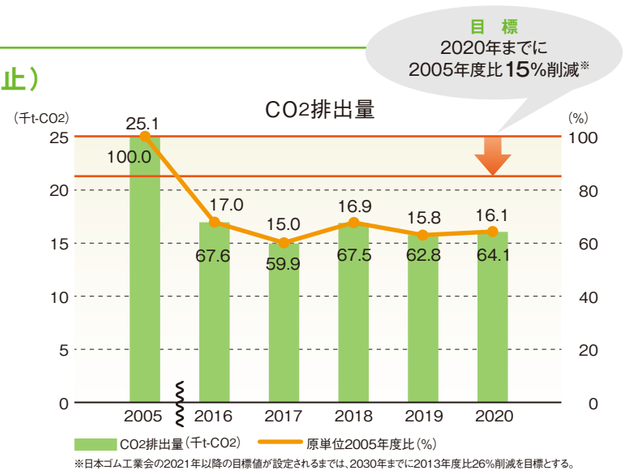
直近の5年間では2018年度に中国の廃プラ輸入禁止の影響もあり、最終処分量が増加しましたが、目標を達成しています。2020年度は3R活動＝総発生量の抑制（Reduce）、再利用（Reuse）、再資源化（Recycle）の強化、リサイクル率の向上により目標を達成しました。また、2019年度よりも減少しています。2021年度も最終処分量のさらなる削減に取り組んで行きます。



CO_2排出量の削減（地球温暖化の防止）

2020年度の温室効果ガス（CO_2）排出量は前年度比2.1%増の16,097t-CO_2でした。

一般社団法人日本ゴム工業会では、環境保全の自主行動計画が策定されています(2021年4月1日最新改定)。地球温暖化対策として、「2020年度のCO_2排出原単位を2005年度に対して15%削減する」目標が設定されています。2020年度も 2019年度に引き続き、目標を達成しています。2021年度以降の目標値につきましては、地球温暖化対策推進法や一般財団法人日本ゴム工業会より示される予定である中期目標に従って取り組んで行きます。



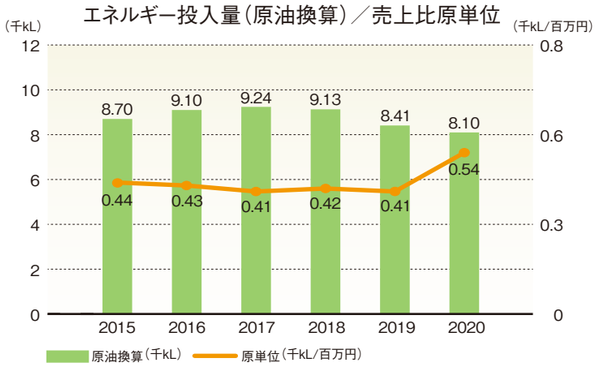
※日本ゴム工業会の2021年以降の目標値が設定されるまでは、2030年までに2013年度比26%削減を目標とする。

エネルギー投入量（原油換算）／売上比原単位

2020年度は、生産金額が前年度に比べ約5%減でしたが、エネルギー投入量（原油換算）は、前年度比で約3.7%減となりました。

売上比原単位では、前年度比で約2.7%の増加で、売上比原単位前年度比1%以上削減の目標は未達となりました。

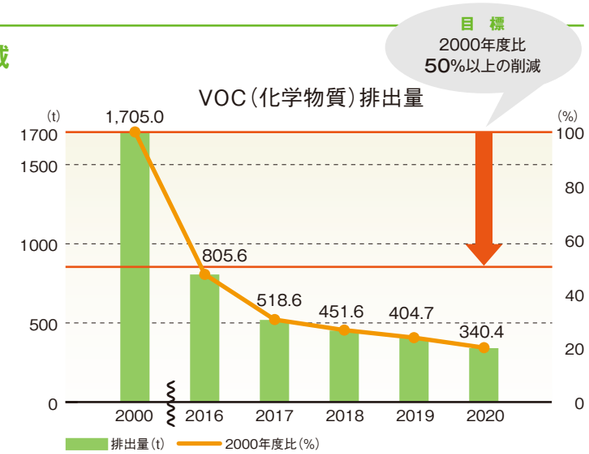
ボイラーの効率運転や省エネ機器への交換設置、照明のLED化などに加え、工場で使うエネルギーロスの削減など、さらなる省エネ活動を推進してまいります。



VOC（揮発性有機化合物）排出量の削減

当社は布とゴムの貼り合わせを行う製品があり、その際に使用するゴム糊には、VOCを使用しています。最終製品からは、VOCを除去することになりますが、密閉型の設備の導入や溶剤回収装置、排気ダクトの改善によってVOCが大気に排出される量を削減しています。また、溶剤回収装置で回収した溶剤の再利用を行っています。

VOC排出量については、2000年度比50%以上の削減を目標としており、2019年度に引き続き2020年度も達成しています。2021年度も目標達成をめざして活動して行きます。



有機溶剤の回収

当社は環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001を2001年に取得し、ゴムの加工製造を行うメーカーとして万全の環境対策に力を入れています。

2017年に新たな溶剤回収装置を導入し、新規有機溶剤の使用量をゼロにしています。他にも、環境にやさしく、人々の安心・安全に寄り添う製品を提供しています。

溶剤回収装置

環境負荷物質の不使用化、削減活動

環境負荷物質の使用量削減の取り組みとして、禁止物質、削減物質、管理物質を特定して禁止物質の不使用化・削減活動を進めています。禁止物質の一部については現在も使用しているものがありますが、代替材料を検討し、お客様の変更承認を得て、不使用化を進めています。

このような取り組みを通じて、環境に配慮した材料設計に基づいた製品をお客様に提供しています。

不使用化を進めている当社指定の禁止物質

1	RoHS2指令	● 鉛（金属鉛） ● PBDE（ポリ臭化ジフェニルエーテル） ● DEHP（フタル酸ジー2ーエチルヘキシル、DOP） ● DBP（フタル酸ジーnーブチル）
2	鉛化合物（EU納入のお客様より不使用の要請あり）	
3	PRTR 特定第1種	● ニッケル化合物
4	お客様より要請のあった化学物質	

TOPICS

ゴルフ場でのエコバッグ配布活動

昨今、マイクロプラスチックによる環境汚染が世界的に問題となり、プラスチックごみを削減する取り組みが加速しています。2020年度の日本ゴルフサミット会議において、ゴルフ業界全体でプラスチック削減に取り組むことが宣言され、当社においても脱プラスチックに向けた様々な取り組みを推進しています。ACP事業部では、ゴルフ場を利用される方が、ロッカーなどで衣類を入れるビニール袋を使わずに、快適にゴルフを楽しんでいただけるよう、大会来場者にランドリーバッグを配布しています。

エコバッグの配布

安心・安全をささえる

当社では、複合化技術を活かした様々な取り組みで、社会の安心・安全を支えています。

コロナ禍における防護服の開発・寄贈

当社独自技術に基づく引布を使用したナイロン製防護服を、グループ会社の株式会社キャラバン(東京都豊島区)と共同で開発しました。軽量でソフトな着心地とともにナイロンにシリコーン処理を施した生地を使用することにより、高い撥水性による遮断性を実現しました。洗って繰り返し使うことも可能です。

新型コロナウイルス感染症の影響で防護服の入手がひっ迫する医療現場に防護服をお届けする取り組みとして、丸山総合記念病院様(埼玉県さいたま市)、自治医科大学附属さいたま医療センター様（埼玉県さいたま市）、埼玉医科大学病院様(埼玉県毛呂山町)、関川病院様(東京都荒川区)などに寄贈しました。

ナイロン製防護服

関川病院様へのご提供

非常用モバイル充電器 アクアチャージ

近年各地で多発する自然災害により余儀なくされる避難生活において、水道水や食料品をはじめとする支援物資の配給とともに問題となるのがスマートフォンや携帯電話の充電です。コップ1杯の水だけで発電するこの非常用モバイル充電器は、長期保存が可能であり、短時間でスマートフォン2台の充電が可能です。“いざ”という時、大切な家族の声を1秒でも早く聞きたい･･･そんな想いにお応えできる製品としてアクアチャージは開発されました。

アクアチャージ　パンフレット

感染対策　陰圧式エアーテント

2020年9月より販売を開始した、当社での初の医療用陰圧式エアーテントです。テント内を陰圧にすることにより、感染症の拡大を防ぐことができます。パンデミックや簡易手術、一般防災など災害にあわせて多目的に利用することが可能です。

新型コロナウイルスの流行により高まる不確実性の中、本製品の展開により、当社の『使命』である『いのちを守る』の実現をめざしています。

陰圧式エアーテント

新型膨脹式救命いかだ　欧州舶用機器指令（MED）認証取得

ゴム引布を用いた救命設備において、これまで培った知見を活かし、安全性とともに小型・軽量などの顧客ニーズに対応するため、2021年度、新製品を市場投入します。新製品は、船舶の救命設備として適用される「膨脹式救命いかだ」です。最新の「海上における人命の安全のための国際条約（SOLAS）」に適合、形状の工夫により小型化、軽量化、省スペース化を実現しました。すでに代理店網とともにアフターサービス拠点として国内70カ所、海外約130カ所を確保しており、新製品については協力関係にあるサービス拠点にライセンスを供与し、海上における人命の安全に資するための万全の体制を構築していきます。

膨脹式救命いかだ

TOPICS

エアフェンスを企画展に出展

2021年5月18日から6月8日の期間、「東京ミッドタウン・デザインハブ第91回企画展」に出展しました。「東京ミッドタウン・デザインハブ」は、2007年4月に開設されたデザインネットワークの拠点であり、デザインによって「人」「ビジネス」「知識」を結びつけることを目的に情報を発信しています。

エアフェンス

第91回企画展「東日本大震災とグッドデザイン賞 復興と新しい生活のためのデザイン展」では、2011年度から10年にわたり、東北6県および茨城県から応募・受賞された全デザインが紹介され、2014年度にグッドデザイン賞を受賞、「グッドデザイン・ベスト100」にも選出された当社のエアフェンスも紹介されました。

また、この期間中の5月27日には日本テレビ系列のクイズバラエティ番組『THE突破ファイル』にて、当社のエアフェンスが人命の安全を保ちながら暴走車両を制止する様子が再現され、多くの視聴者に認知されました。

地域社会とともに

当社は、拠点周辺地域に限らず、幅広い地域社会とのコミュニケーションを推進しています。

緊急災害対応アライアンス「SEMA」に加盟

当社は、民間企業と市民団体である防災・減災日本CSOネットワークが連携し、日本国内において災害支援を行うための仕組み「SEMA（Social Emergency Management Alliance）」に加盟しています。SEMAは平時から加盟各社が持つ物資・サービスなどをリストとして集約しています。大規模な自然災害の発生時には、当社のエアーテントや非常用マグネシウム空気電池などを提供することが可能です。

非常用マグネシウム空気電池「WattSatt」

災害用エアーテント

非常用モバイル充電器「アクアチャージ」

近隣中学・高校総合学習支援

当社は、次世代を担う子供たちに、地域産業を通して夢や希望を届けたいと願い、地域の総合学習支援活動を行っています。

2020年度は福島県南相馬市内の中学校において、地域の産業、地元企業との触れ合いを通じて、ふるさと南相馬市の良さを再認識していただくため、総合学習を支援しました。またインターンシップの受け入れや、工業高校における模擬試験面接指導なども積極的に行っています。

総合学習支援（南相馬市）

高校生による就業体験（さいたま市）

そうそう地域共生社会推進チームの取り組み

2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けた相双（そうそう）地域（福島県の東部、相馬市・南相馬市・双葉郡周辺）は当社にとっても事業の基盤として地域の人々とともに発展してきた大切な場所です。

急速に高齢化の進むこの相双地域に生きる人たちが、今までどおりの活動を行いつつ、ICTの積極的な活用によってその地域の社会的課題を解決することを目的として、「そうそう地域共生社会推進チーム」（猫のてコミュニケーションズ）が設立されました。

当社は認知症の徘徊高齢者を見守るシステムの構築を、特別協賛などにより支援しています。

そうそう地域共生社会推進チーム ⇒
https://peraichi.com/landing_pages/view/sousoupresent

「見守りボランティア」スマホアプリ　啓発ポスター

工業団地一斉美化活動

毎年、事業所周辺の清掃を行っています。2020年度はコロナ禍で中止になる工場が多くありましたが、岩槻工業団地では2020年12月16日に開催され、19名の従業員が参加しました。従業員の環境保全意識向上に加えて地域への社会貢献にもつながっています。

工業団地一斉美化活動

献血活動

毎年2回（2月・6月）に『埼玉県赤十字血液センター』に来社いただき、従業員の献血活動を推進しています。社会貢献に役立つとともに、「自分の協力が誰かの命の支えとなる」といった従業員の意識向上にもつながっています。コロナ禍により2020年6月は中止せざるを得ませんでしたが、コロナ禍の収束後は継続して実施する予定です。

岩槻工場（埼玉県）にて

TOPICS

スピーダーチャレンジの開催

スピーダーチャレンジは、ジュニア、アマチュア、プロ、さらには性別やスキルの垣根を無くし、ゴルファーなら誰もが参加できる革新的なゴルフトーナメントです。2020年度はコロナ禍で大会の開催が危ぶまれましたが、検温や体調チェック表の事前提出など、できる限りの感染症対策を講じたうえで2020年9月から12月14日まで開催され、全国7会場で約1,000名の参加者が熱い戦いを繰り広げました。

本大会は、ジュニア、アマチュアには「プロゴルファーへの憧れ」を、プロゴルファーには「試合環境」を提供することで、次世代のプレイヤーを生み出すことも目的としています。今後もゴルフの将来性、可能性、社会性、娯楽性、革新性を訴求してゴルフマーケットの市場活性化をはかっていきます。

第3回大会　入賞者

お客様・お取引先様とともに

当社は企業理念の一環として「品質方針」を定め、この方針に基づいて全社員がお取引先様とともに行動し、
お客様の満足する製品を提供することで、信頼される企業となるように努めています。

品質向上への取り組み

当社の製品とサービスが、品質の安定、技術開発のスピードアップ、コスト低減などにより、お客様の一層の信頼を得ることを目的として、1988年以降、品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」の認証を各事業部門で取得し、あらゆる業務の品質向上をめざして活動を進めています。その結果、新規のお客様の増加、海外のお客様からの信頼の増加など、グローバルな取引においても満足度の向上につながっています。

また、当社は以下の品質方針に則り、全ての製品・サービスについてお客様が安心して利用できるようにするため、必要な情報を正確かつ適時に提供するとともに、「品質至上」に徹し、安全で環境に配慮した製品を提供することとしています。

さらに、製品を供給した後の製品の保守、不備などに対応するための窓口を各事業部門で明確にし、お客様との密接なコミュニケーションづくりに努めています。

品質管理においては、品質マネジメントシステム（ISO9001）を維持し、常にお客様の満足を追求しつつ、継続的な改善を行っていきます。

製品の開発・設計・製造にあたっては、お客様のニーズを的確に捉え、当社独自のコンポジット技術により、様々な製品をご提供しています。

品質方針

「消費者重視」「製品安全の確保」の為に、「品質至上」に徹し、優れた製品を提供し社会に貢献します。

常にお客様の満足する製品の提供を目的とします。

品質マネジメントシステムの有効性を維持し、目標達成への行動を通じて、継続的な改善を行います。

CSR 調達基本方針

企業理念「豊かな暮らしと安心を支える製品を生み続けます」に基づき、安全・安心で高品質な商品・サービスをお客様にお届けするため、公正・公平な取引を実施し、サプライチェーンのお取引先とともに、人権・労働基準・環境などの社会的責任にも配慮した調達活動を推進します。

お取引先様との良好なパートナーシップを構築して、お互いの情報を共有し、お互いの価値観を高めあいながら品質の良い、利便性の高い商品を市場に継続して供給することで、人々の安心を支え社会の豊かさに貢献します。

1 法令遵守と国際行動規範の尊重

各国の法令を遵守し、
国際行動規範を尊重した公正・公平な調達活動を推進します。

2 人権・労働・安全衛生への配慮

基本的人権を尊重し、
労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

3 品質・安全性の確保

「品質方針」に準拠し、品質・コスト・供給の最適な水準に基づく
安全性の確保をめざした調達活動を推進します。

4 地球環境への配慮

「環境・労働安全衛生（OH&S）方針」に準拠し、
地球環境に配慮した調達活動を推進します。

5 情報セキュリティの保持

調達取引に関わる機密情報及び個人情報は厳格に管理します。

6 社会との共生

社会との共生に向けた社会貢献への取り組みを推進します。

従業員とともに

当社では、多様な人材が個々の能力を最大限発揮でき、
いきいきと働き続けることのできる環境づくりを推進し、従業員の多様な働き方を応援しています。

健康経営への取り組み

当社では2020年4月より、健康経営を推進しています。社員の健康を重要な経営資源の一つであると捉え、個人の自発的な健康活動に対して積極的な支援を行い、組織的な健康活動の推進をはかっています。

2020年10月1日から31日にかけてウォーキングラリーを開催し、313名の従業員が参加しました。また健康に関する情報を発信する「健康経営プロジェクト（KPJ）通信」を毎月従業員に向けて発行しています。

会社、健康保険組合および労働組合が一丸となって、従業員の健康と、経営理念にある『いきいきコミュニケーション』の構築をめざしています。

ウォーキングラリー祝勝会

健康経営プロジェクト（KPJ）通信

夜間避難訓練

夜間勤務が行われている当社工場では、夜間避難訓練を実施しています。2020年度は12月14日に実施され、加須工場で準夜勤、夜勤勤務に従事する14名が参加しました。工場周辺で震度5強の地震が発生し、その影響で停電が発生、作業継続が不能と判断し避難することを想定して訓練が行われました。暗闇の中で避難経路の確認や非常灯、誘導灯が不足していないかなども含めて確認し、夜間の安全向上をはかりました。

夜間避難訓練の様子（加須工場）

カジュアル Biz の導入

当社は2020年11月1日よりカジュアルな服装での勤務を認める取り組み「カジュアルBiz」を開始いたしました。カジュアルBizは、働き方改革の一環であると同時に、経営理念である「いきいきコミュニケーション」のさらなる追求を主な目的としています。今回の正式導入に先立ち、3ヶ月間のトライアル期間を設け、アンケートを実施した結果、「身体的なストレスの低減」、「社内の雰囲気の向上」、「健康意識やモチベーションの向上」など様々な効果が見受けられました。2021年度に創業120周年を迎える当社がさらなる成長を遂げ、ステークホルダーの皆様により一層の信頼をいただける会社をめざすため、今後も従業員がいきいきと働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでまいります。

カジュアルBizの取り組み（本社）